

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2972200089		
法人名	株式会社 クローバー		
事業所名	グループホーム 四つ葉のクローバー		
所在地	奈良県宇陀市菟田野古市場481番地		
自己評価作成日	平成24年2月26日	評価結果市町村受理日	平成24年5月30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の中で認知症があってもその人らしく暮らして頂けるケアの実践を目指し、職員一同が取り組んでいます。常にご利用者、御家族の立場に立って考え対応できるように綿密に申し送りや業務の見直しも行っていきます。母体である医療機関は24時間対応可能で、月に2度の往診もあり、医療面でも充実して安心して暮らして頂ける環境にあります。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成24年4月13日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

病院を中心とする法人事業のこれまでの取り組みの中で、グループホームの必要性を認識し、開設されたホームです。「家庭的な環境の中での支援等」を理念のポイントとして掲げ、一人ひとりの生活歴、性格、思いを十分把握し、本人のプライバシーと個性を尊重し、安心、安全な生活とはどのような暮らしかを、職員一同は、本人の立場に立って追求されています。実際、ケアは大変きめ細かく、様々な工夫や配慮、研究が見られます。静かな田園風景の町の中に立地し、建物はバリアフリーで、掃除が行き届き清潔感にあふれ、リビングは、適度に光が差し込み明るく、対面式キッチン、量の間の炬燵等五感刺激への配慮や馴染みのものを取り入れた設え等居心地よく過せるよう工夫されています。本人が自ら植えた花を見るために自宅に帰ったり、馴染みの理美容院や墓参りに出かける等馴染みの人や場の関係継続の支援に努められています。職員の交代は、引継ぎ期間を十分にとりスムーズに移行できるよう工夫し、利用者と職員の馴染みの関係づくりへの配慮や医師による定期的な訪問診療等手厚い医療体制が整い、利用者や家族の安心と信頼関係を築きそれらに支えられています。家庭的で温かな雰囲気の下、笑顔と感謝の気持ちを忘れず、心と心で家族みんなの幸せ作りを目指し支援されているホームです。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれた施設である事を目指し、日々の業務の中で確認し合い、理解し実践に取り組んでいます。	家庭的な環境の中での支援等を重視した理念とされていますが、認知症になっても自分らしく有する力を発揮しながら、地域で暮らし続けることへの支援である地域密着型サービスの意義を踏まえた理念づくりや、その理念を管理者と職員間で共有して実践につなげる取り組みは課題です。	理念とは、ホームが目指すサービスのあり方を端的に示したものであり、常に立ち戻る根本的な考え方です。ホームが地域密着型サービスとしての果たす役割を踏まえた理念をつくり、その理念が日々のサービス提供場面で振り返り、反映されていることを確認する等の取り組みを期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域内の行事や系列事業所の行事また、当ホームのイベントにも参加して頂ける様に呼びかけています。日常的に挨拶をし、オープンな環境作りをしています。	ホーム行事への地域の人の招待はもちろん、自治会に加入し、地域の祭り等の行事や清掃等に参加する等地域の一員としての取り組みもなされています。より一層交流を深めるため、積極的に散歩に出かけ挨拶を交わす等取り組みについても検討されています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの訪問時やイベント開催時等に認知症についての文章を配布したり、施設の説明文書を配布するなど対応している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事予定や研修予定の報告、入居者の近況報告、事故などの報告を行っています。いろんな課題に対する意見を交え運営やサービスに生かしています。	会議は、関係者の日程調整の関係から家族、地域住民、市職員等の参加の下、6月に1回開催され、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行われています。	運営推進会議は、外部の人々の目を通してホームの取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会ですから、今後は、市職員等の参加者への働きかけを工夫し、概ね2月に1回開催することが望まれます。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	支援会議の出席、特変時、事故の報告をしています。認定調査や入居状況もリアルタイムで伝えあらゆる面で協力を得られるようになっていきます。	行政は、介護保険の保険者であり、地域福祉の推進役として最前線の立場にあることを踏まえ、市担当者との連携が不可欠との認識から、現状の報告や相談を行ないながら連携を図れるよう努められています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各研修に参加し、理解できる機会を設けています。建物内は出来る限り施錠せず、見守りの強化を行っています。また、日々のケアの中で、拘束に繋がる事が無い意識を持ち、取り組んでいます。	身体拘束をしないケアについてミーティング等で話し合い、職員の共通認識を図るようになっています。日中玄関は施錠することなく開放されていますが、利用者の安全への配慮から、門扉が施錠されています。	自身の行動をコントロールされる理由や規則の理解が困難な認知症の人にとっては、自由に外に出られないことによる、心理的な抑圧感や不安、怒りは大きく、あきらめや気力の喪失をもたらします。今後は、人権尊重の観点から、安全確保の上、鍵をかけない対応についての工夫を期待します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各研修に参加し理解できる機会を設けています。常に入居者の身体状況を申し送り変化が無いかの注意を払い、内部での研修も定期的に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し学んでいます。成年後見制度を利用しておられる利用者もおられる為、必要な話し合いの時間も持っています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章及び口頭で十分に説明を行い対応出来る様にしています。不安や疑問に対しても安心して頂けるように配慮し理解と納得をして頂いています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に十分説明をしている。また、苦情については、第三者期間と契約している事も説明、契約書にも明示している。いろいろな意見を話し合い運営に反映させている。	家族の訪問時等の機会を捉え常に問いかける等何でも言ってもらえる雰囲気づくりに配慮する他、外部に意見・苦情を表せる機会や場があることを説明されています。出された意見等は職員間で検討し、その結果を報告し、運営に反映されています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談時や日々の申し送り、カンファレンスやミーティング時等、意見を提案できる機会を設け記録し、反映させている。	随時のミーティングや毎月1回会議を開催し、意見交換が行なわれています。利用者と職員の馴染みの関係づくりに配慮し、職員が交代する場合は、引継ぎ期間を十分にとりスムーズに移行できるよう工夫されています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の確認。資格や勤務状況に応じて給与水準を設け、年に一度人事考課を行い、対応している。各自に向上心を持ってもらえるように各研修に参加してもらい定期的に面談を行い意見を聞いている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課等を元に各人の把握に努めている。また、研修を受ける機会を設けている。内部研修は、予め計画を立て取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は、積極的な交流は無く、今後について考えていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に把握出来るように努めている。思いに添って話しをして頂けるように対応し、意見をお聞きできない場合は、家族様を通して今までの生活歴を踏まえ安心して頂けるように努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されるまでの間に何度か面談を行い必要なケアについて十分話し合っている。家族様の気持ちに添い不安や心配無く、ホームでの生活を送って頂けるように密に連絡を取れるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や生活歴を詳しくお聞きし、本人と家族の立場に立ってどんなサービスが必要かを他職種や他サービス提供者と共に連携を取り対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いろいろな場面で共感できるように働きかけている。また、個々の関りを大切に、いろんな形で役割りを持って頂けるような取り組みを行い、一緒に生活をしているという環境作りをしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細やかに連絡させて頂き、共に状況の変化の共有をし、理解しながら支え合って行けるように家族の協力も得て、支援を行っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を通じて馴染みの人達へ連絡を取って頂き面会に来て頂いている。また、定期的の手紙を書いてもらい職員が投函している。馴染みの場所へは、家族の協力ですべて外出もして頂いている。	本人が自ら植えた花を見に自宅に帰ったり、馴染みの理美容院や墓参りに出かける等の他、地域に暮らす知人の訪問がある等馴染みの人や場の関係継続の支援に努められています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係把握に努め、レクリエーションや運動、散歩をして頂いている。テーブルの席の配置も考慮し、自然に関れるように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の状況の変化、家族様の変化等も含め連絡を取り合っています。その時には必要とされている内容の相談に応じ、より良いケアの方向性も話す機会を設けています。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向、希望を職員で把握し、楽しみを持って生活を送って頂けるように話し合い対応しています。また、意思表示の困難な場合は表情等から汲み取りケアを行っています。	日々のかかわりの中で、声を掛け、言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認する等把握に努められています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴はケアを行う上で重要な事である為、関りの中で大切にしています。また、入居に到るまでの経緯も理解し、情報を共有し、ケアに取り組んでいます。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の過ごし方、昼夜の変化を把握し、介護計画を立てて総合的に支援ができるように努めています。また、残存機能を見極め積極的に働きかけるケアを行っています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族とは、本人の状況に応じ話し合える機会を作り、意見をお聞きし介護計画を作成している。また、職員とも全体のミーティングを開催しその都度話し合っている。	本人や家族の意向を確認し、関係者の意見を参考に、職員間でカンファレンスを行い介護計画を作成されています。状態に変化がある時はもちろん、定期的にモニタリングを実施し、それに基づき見直し、現状に即した介護計画を作成されています。	介助項目を主とした介護計画を作成されていますが、今後更に、利用者の視点に立って、地域でその人らしく暮らし続けるために必要な支援を盛り込んだ個別の具体的な介護計画の作成が望まれます。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録とは別に全体への申し送り記録、気づきノートの作成、基本的に詳しく情報を記入し、共有している。その事により、状態の変化や長期間による変化を掴んだ上で介護計画の見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	系列の事業所にいるんなサービスが隣接している為、他職種との意見交換も行ないながら多様に渡り時々の状況に応じ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア、民生委員等の協力を得て地域内の行事やお祭りに参加している。多くの場面で地域の住民の皆様の協力を得て安全に参加、楽しみを持って頂けるように支援をしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である病院がかかりつけ医として対応している。また、本人及び家族にも納得して頂いている。月2回の往診対応も整っていて、特変時にも適切な医療を受けて頂ける環境である。	本人や家族が希望するかかりつけ医とし、基本的には、家族同行の受診となっていますが、状況に応じて職員も同行されています。普段の様子等の情報を伝え、受診結果についても共有されています。医師の定期的な訪問診療が受けられるよう支援され、利用者や家族の安心につながっています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	系列の訪問看護ステーションが協力医療機関であり、定期訪問や特変時の対応を出きる状況にあり、個々の利用者の把握もできている。また、母体の病院には、開設時からの担当看護師もいる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会時には必ず状態の確認を行っている。主治医や担当看護師とも話し合う機会を持ち早期退院に向けての相談を行っている。また、退院後も常に状態の報告をし、連携が取れる関係作りをしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身の状態の変化に注意し、家族に説明。主治医や関係者にも相談をし話し合える時間を作り、方針を共有している。また、嚥下の状態が困難になった時点で母体の病院へ入院する終末期の支援体制が整っている。	運営方針として重度化に対応しないこととされており、契約時等でできるだけ早期から重度化した場合や終末期のあり方、ホームが対応し得る最大のケアについて説明し、本人、家族等、かかりつけ医等ケア関係者との話し合いを繰り返し、その時々本人・家族等の意向を確認しながら、対応方針の共有を図るようにされています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	系列事業所全体で、心肺蘇生や特変時の対応の実習を行っている。各入居者の疾患に応じての勉強会や対応を検討し実習を行い、実践力が付くように対応している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施しています。管轄の消防署の応援や指導を受け職員が緊急時に対応出来る様にしていますが、地域の協力体制は築けていない。	定期的に避難訓練等を実施されています。地域の協力体制の構築について、検討されています。	災害はいつ起きるかわからないことから、地域の協力体制を構築し、地域住民等の参加、協力を得ながら夜間を想定した避難訓練等の実施及び食糧や飲料水等の備蓄等速やかな災害対策の実践が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や家族構成などいろんな面を考慮し、本人が自然な振る舞いができるような言葉かけが出来る様に対応しています。	人格の尊重やプライバシーを損ねない対応について、研修やスタッフ会議等で確認し合い、人格の尊重に配慮した言葉掛けや、援助が必要な時も、さり気ないケアを心がけて対応されています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あらゆる場面で事前の言葉かけをしています。また、意思疎通の困難な入居者にはスキミングを図りまた、表情等から汲み取り対応し、気付いた点や希望などを記録し申し送りを重ね共有できるように対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活歴を大切に、食事内容や入浴時間を考慮出来る様に対応している。また、日々の暮らしの中で希望を聞けるように、できる限り対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容とも本人の意見を大切に、希望に添うように対応している。また、その人らしく過せるように個々の状態に応じたおしゃれが出来る様にしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の感想等をお聞きし、楽しみのある時間出来る様に対応している。準備や片付けなどで、出きることは手伝って頂き個々の能力に応じた部分で一緒にして頂いている。	テーブルや食器拭き、後片付け等個々の能力に応じて職員と協働して作業をする等食事への関心を引き起こす工夫がなされています。一部職員は弁当を持参し、サポートに徹し休憩時間に昼食を摂られています。	ホームでの食事は栄養摂取だけでなく、利用者と職員と一緒に、メニューを考え買い物や調理し味わいながらその仕上がり具合等を話題に楽しく食す支援が求められ、こうした協働作業での利用者の力の発揮や楽しく食べることを目指し、調理や弁当のあり方について検討されるよう望みます。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分補給のチェックを行い把握する。また、個々の病歴や身体状況に応じ1日を通じて理解できる勤務体制ができている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々により対応している。必ず最低1日1回は口腔内の確認を行い清潔の保持を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎の声掛け誘導を行いトイレでの排泄が出来る様に支援をしている。日々の改善を心掛けひとり一人の排泄パターンを理解し対応している。	排泄表を使用し、時間を見計らって誘導しトイレで排泄できるよう支援されています。確認や誘導はあからさまではなく羞恥心に配慮した支援をされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確認や食事内容の見直しをし、個々に合った運動や体操を取り入れ便秘予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	状態に応じた対応はしていますが、重度化した現状は施設側の設定日の入浴が多く、個々の希望を反映できていない状況です。	本人の意向に沿っていつでも入浴できるように支援されています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に応じて対応しています。起床時間も考慮し、午後の臥床時間の確保しています。また、夜間の就寝時には、明かりや空調、湿度の調節も行い、気持ちよく眠って頂けるような環境作りをしています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の薬を個々にファイル管理し理解できるようにしている。また、副作用についても薬剤師である担当ケアマネから意見や指示を受けている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は個々の生活歴を理解し、状況に応じた役割りや楽しみのある生活を提供出来る様に対応している。毎日の日課の中でも気分転換の場の提供を意識し、声を掛け合っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じ外出支援をしている。地域のお祭りや行事に参加し地域住民の協力も得ている。いろんな行事に家族と共に参加、交流して頂けるように文書などで発信し、本人が出かける事ができるように協力も得ている。	家族の協力を得て、墓参り、法事等にも出かけられるよう支援されています。日常的な外出は、気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会として、主にホームの敷地内で散歩されています。	その人らしく暮らし続ける支援のためには、これまで通り外に出かけることを当たり前のこととして支援していくことが求められていますので、今後は、これまでの生活の継続として捉える外出支援の工夫が望まれます。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常ではお金の面での支援はできていないが、年に数回のイベント時等の買い物では、職員が付き添いお金を持って希望する物を購入して頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡できる利用者にはいつでも使って頂いている。手紙の代筆を行ったり要望があれば、内容を読ませて頂いたり積極的に支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心掛けている。季節感のある音楽を流したり、空調の調整、湿度の調節を確認対応している。また、両ユニット共、季節のディスプレイをし、居心地良く過ごせるように支援をしている。	建物はバリアフリーで、掃除が行き届き清潔感にあふれ、リビングは、適度に光が差し込み明るく、対面式キッチンや畳の間の炬燵等五感刺激や生活感への配慮に加え馴染みのものを取り入れた設えにする等居心地よく過ごせるよう工夫されています。	季節に応じてその時々々の作品を飾りつけられています。ホームの居間は、高齢の利用者が自宅の延長として、落ち着いて居心地良く過ごせるよう工夫することが求められています。こうしたことから、家庭的な雰囲気や季節感への配慮が期待されます。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置を考慮したり、両ユニットの利用者が移動してレクリエーションに参加して頂いている。また、共通の趣味を生かした活動もできるように配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の面談時には、環境の変化による不安が増す事が無いように、できるだけ入居前に使用されていた物を持って来て頂き不安なく過ごして頂けるように配慮している。	写真やタンス、仏壇等の思い出の品々が持ち込まれ、それぞれの利用者が居心地良く過ごせるよう配慮されています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・洗面所等分かり易いように対応している。また、掃除用具入れも分かるようにしている。		